



つむぎだより No.14

◇つむぎちゃん紹介◇

今月は、前回初お披露目となった当法人マスコットキャラクターつむぎちゃんの紹介をしていきます。

Q1.お誕生日は？

5月1日！

昨年、法人を設立した日に誕生しました。まだ1歳の子どもゾウさん…いつか立派なゾウになる日を夢見しています。

Q2.チャームポイントは？

大きなお耳と頭の丸！

小さな声まで拾うことのできるお耳で、人のお話を聞くことが大好きです。

頭の丸にはなんと情報をキャッチする不思議な力が…？今後、最新情報をお届けする日が来るかもしれません。

Q3.性格は？

明るく元気！そして、食欲旺盛！！

まだ1歳ですが、食べることが何より大好き。特に甘いものは食べ始めると止まりません。もしかして、食欲旺盛なのは代表に似てしまったから…？

Q4.宝物は？

つむぎのロゴマークが入ったスカーフ！

いつも肌身離さず身に着けています。

☆ひとこと☆

改めまして「つむぎちゃん」です！みなさんとお話できる日を楽しみにしています。むぎむぎ。

(つむぎちゃん)

1、「職場のハラスメントに関する実態調査」の報告書が公表されました

厚生労働省委託事業「職場のハラスメントに関する実態調査」(令和2年度)が報告されました。

◆ 過去3年間に一度以上のハラスメントを経験した労働者の割合は

パワハラ	31.4%
顧客等からの迷惑行為	15.0%
セクハラ	10.2%

となっており、また相談件数の推移については、セクハラのみ「減少している」という回答の割合が高く、その他のハラスメントについては、「変わらない」が最も多くなりました。

◆ ハラスメントが発生しやすい職場の特徴としては

「上司と部下のコミュニケーションが少ない／ない」

「ハラスメント防止規定が制定されていない」

「失敗が許されない／失敗への許容度が低い」

「残業が多い／休暇を取りづらい」などがあげられ、また、勤務先が「積極的に対策に取り組んでいる」と回答した労働者では、ハラスメントを経験した割合が最も低くなりました。

◆ ハラスメントを受けた後の労働者の行動として割合が高かったのは

パワハラ・セクハラ…「何もしなかった」

顧客等からの迷惑行為…「社内の上司に相談した」、「社内の同僚に相談した」

となっており、ハラスメントを知った後の勤務先の対応としては、パワハラでは「特に何もしなかった」47.1%、セクハラと顧客等からの迷惑行為では、「あなたの要望を聞いたり、問題を解決するために相談にのってくれた」が、それぞれ34.6%、48.6%で最も高い割合になりました。

◆ 予防・解決のための取組として、8割程度の企業が「ハラスメントの内容、行ってはならない旨の方針の明確化と周知・啓発」および「相談窓口の設置と周知」を実施していましたが、さらに「相談窓口担当者が相談内容や状況に応じて適切に対応できるための対応」を実施している企業は4割程度でした。

職場のハラスメントの予防・解決対策の参考にされてはいかがでしょうか。

出典：職場のハラスメントに関する実態調査

<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/000783140.pdf>



=季節のコラム=

6月10日は「時の記念日」。祝日ではありませんが、歴史のあるものです。

大正9年、文部省が「時」展覧会を企画すると、伊藤博文を会長とする生活改善同盟会が、これに賛同しました。もともと生活改善の第一に「時間を正確に守ること」を掲げていたからです。

そして、この会期中に、提案されたものが『時の記念日』。社会文化の発展に時の認識が必要と考えた天智天皇が、671年、近江大津宮に漏刻(水時計)を創設して時報を開始した故事に由来したものでした。

社会の発展を願った人々の、時を超えた思いが制定させた記念日なんです。 (鹿島)



社会保険労務士法人つむぎ

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目1番22号

フェアステージ大手前ビル7階

電話: 06-4397-3358

FAX: 06-4397-3359

Email: info@sr-tsumugi.or.jp

営業時間

平日 9:00~18:00

HP: <https://sr-tsumugi.or.jp/>

2、テレワーク推進 厚労省はガイドラインを拡充

新型コロナウイルスの感染拡大のため、テレワークを経験する労働者が増えるとともに、地方移住やワークライフバランスの充実への関心が高まっています。政府は、この機をとらえ、「地方創生テレワーク」を推進する方針を打ち出しています。

内閣官房に設置した検討会議では、昨年12月から議論が重ねられ、提言がとりまとめられました。新たな働き方として、『首都圏等に立地する企業に勤務したまま地方に移住して仕事をするスタイル』の普及・定着を図ることとなりました。

一方、厚生労働省は、労使双方のプラスとなるように働き方改革推進にも配慮したガイドラインを公表しました。従来の「情報通信技術を利用した事業場外勤務の適切な導入及び実施のためのガイドライン」をベースとしながら、対象者の選定や評価制度の整備など、人事労務管理全般をカバーする内容に拡充されて

います。

「テレワークを行う労働者の安全衛生を確保するためのチェックリスト【事業者用】」と「自宅等においてテレワークを行う際の作業環境を確認するためのチェックリスト【労働者用】」も添付されています。ぜひご利用ください。

出典: 厚生労働省「テレワークの適切な導入及び実施の推進のためのガイドライン」



3、今月のおすすめ本

今月は「ビジネスマンのための歴史失敗学講義 何が明暗を分けたのか」(瀧澤中著/致知出版社)をご紹介します。

この本には、歴史上の偉人や名君と呼ばれる人物であっても、多くの失敗をしていることが書かれてあります。その失敗は私たちも冒すかもしれない失敗ですので、現代に活かせるものがたくさんあります。

ドイツの宰相ビスマルクが「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉を残しています。自分が経験できないことでも、先人たちが経験したことを歴史から学ぶことで、より多くの経験と知恵を学ぶことができますということです。

内容は、組織・指導者・重臣たちなどの

失敗、勝利の怖さ(慢心)、対外関係の失敗、負ける経済の仕組み、…歴史の好きな方には、歴史上の出来事の裏にあった失敗を興味深く知ることができます。

ぜひ、読んでみて下さい。 (川端)



Kirinuke